

# 政府におけるIT人材の育成について

第7回政府情報システム改革検討会資料  
2011年(平成23年)2月14日

総務省行政管理局 技術顧問  
岩丸良明

〔 独立行政法人 情報処理推進機構  
情報処理技術者試験委員会 委員長 〕

# 1. 行政機関におけるIT人材の育成・確保指針

平成19年4月 「行政機関におけるIT人材の育成・確保指針」を策定(CIO連絡会議決定)  
平成20年4月まで 各府省は、この指針に基づき実行計画を策定

## 1. 内部のIT人材の育成

- (1) PMOやPJMOに求められる人材像を明確化すること
  - ・積極的にマネジメントを行うことができる
  - ・十分な現状分析や業務の見直しを行うことができる
  - ・システム方式など必要な要件の的確な定義ができる
  - ・事業者が投入した工数の妥当性について判断できる 等
- (2) 総務省が行う情報システム統一研修の活用や各府省独自の研修の充実を図ること 等
- (3) 人事交流の推進を図ること
  - ・業務担当部門－情報システム担当部門間
  - PMO－PJMO間、各府省間 等

## 2. IT人材の確保

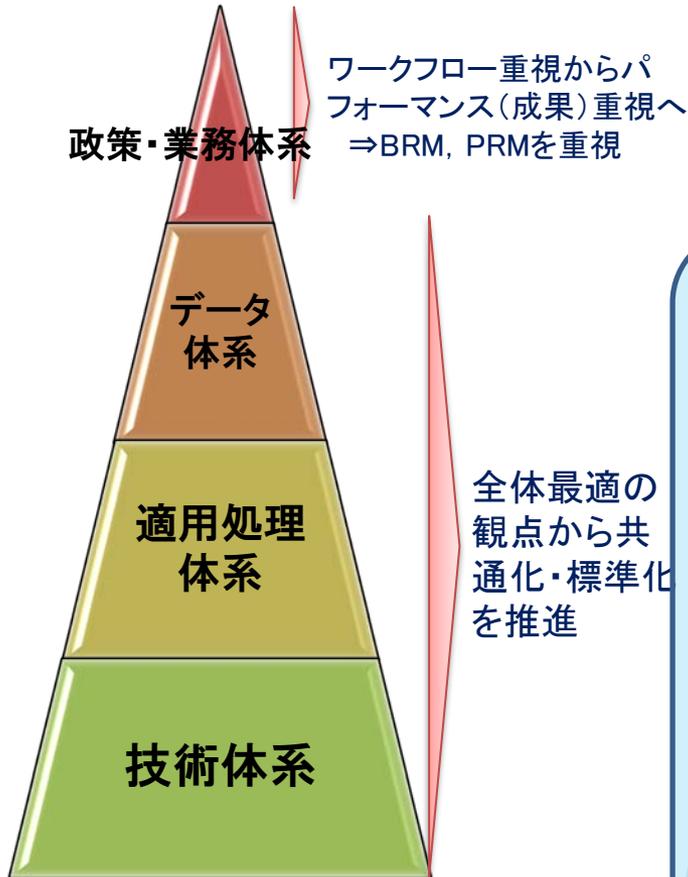
- (1) 内部のIT人材を確保すること
  - 最適化業務の経験者の活用を図ること
  - 知識や経験の継承を図ること 等
- (2) 外部のIT人材を確保すること
  - CIO補佐官のさらなる活用・登用を図ること
  - PMOやPJMOを支援する事業者の活用を図ること
    - ・仕様書作成支援, 工程管理支援 等
  - 法律専門家の活用を図ること
    - ・仕様書, 契約書の法的な確認 等

CIO補佐官級の内部人材をPMOやPJMOに配置し、最適化計画に基づく最適化の着実な実施、適切な調達、効果の確実な発現を図る。

【評価】 一部の府省では積極的に対応しているが、府省全体としての足並みは揃っていない  
高度IT人材の育成には時間がかかっている  
CIO補佐官・支援事業者の任用(調達)の方法も多岐にわたっている

# 2 政府におけるIT人材の育成

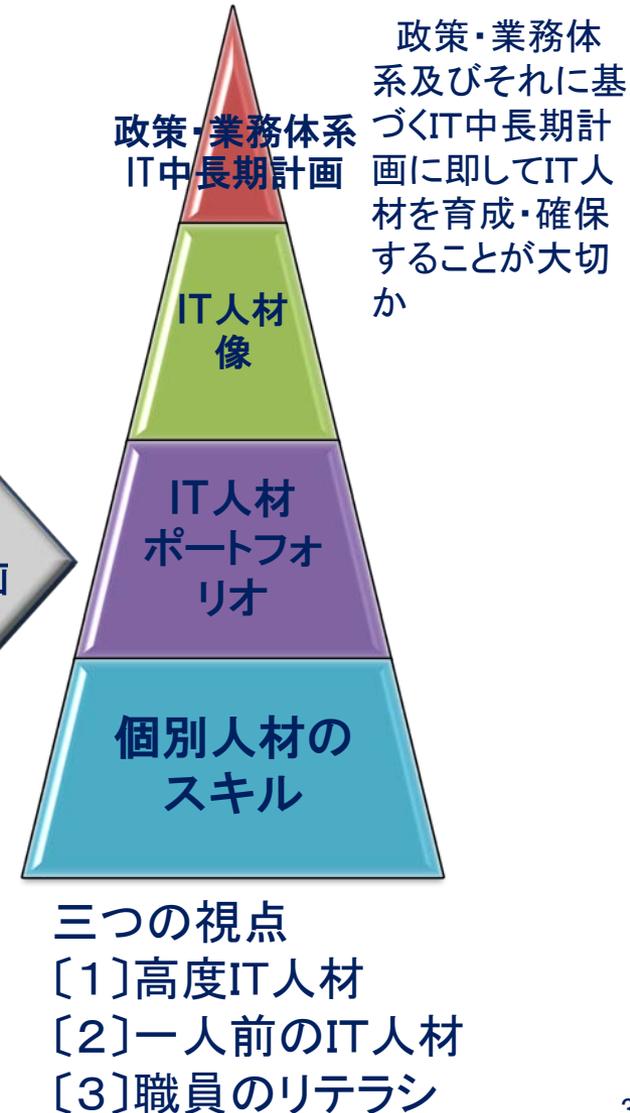
＜これからのEA＞



＜現在のIT人材育成＞



＜これからのIT人材育成＞



### 3 政府役職員に関するIT人材像(例)

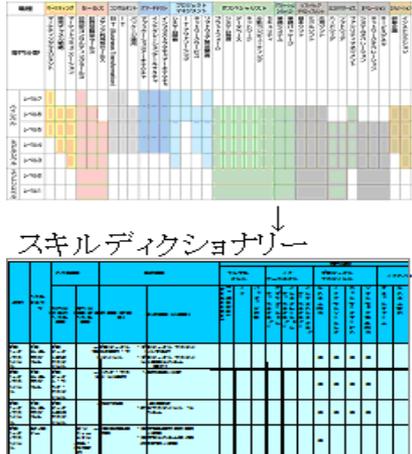
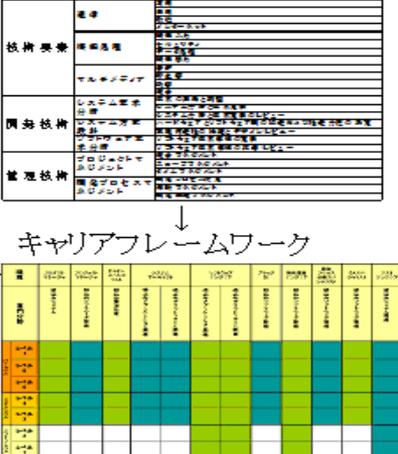
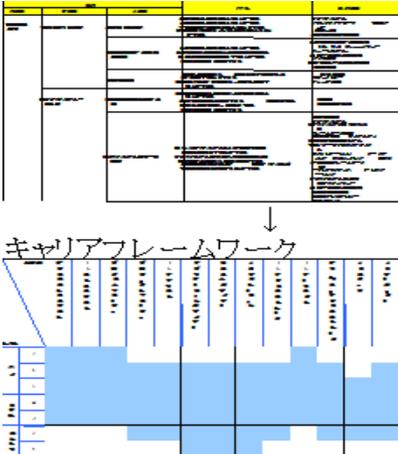
出典: CIO補佐官等連絡会議 ITガバナンスワーキンググループ2007年度検討資料

1. 人材区分は, 政府の仕事を勘案し, 簡略化して整理。
2. 仕事の内容は, ITスキル標準(ITSS)を基本とし, 情報システムユーザースキル標準(UISS)を参考にして, 政府のITに特に必要な業務を中心に洗い挙げ。
3. 個々の仕事について期待されるレベル感は, ITガバナンスワーキンググループのメンバが協議して設定(赤枠内の分)。

人材区分	高度なIT人材 (レベル4~)	一人前のIT人材 (レベル3)	職員としてのITリテラシ (レベル1~)
CIO	?	?	
CIO補佐官	○		
PMO	○	○	
PJMO	○	○	
IT部門のシステム管理者		○	
一般の職員			○

(注)レベルは, 共通キャリア・スキルフレームワークのレベルに対応。ITスキル標準等も, 同一の基準。

# 【参考1】 IT関連のスキル標準

	ITスキル標準 (ITSS)	組み込みスキル標準 (ETSS)	情報システムユーザー スキル標準 (UISS)
公開時期	2002年12月	2005年5月	2006年6月
実施主体	IPA/ITスキル標準センター	IPA/ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC)	経済産業省
目的	各種IT関連サービスの提供に必要とされる能力を明確化・体系化した指標であり、産学におけるITサービス・プロフェッショナルの育成・教育に有用な共通枠組み。	組込ソフトウェア開発に関する最適な人材育成、人材の有効活用を実現するための指標。(スキル基準では“技術”に着目し、ビジネスやパーソナル等のスキルは定義していない。)	情報システムを活用するユーザー企業/組織において必要となるスキルをシステムの企画・開発から保守・運用・廃棄に係るまでのソフトウェアライフサイクルプロセスに基づき体系化した指標。
主な対象	ベンダ	組み込みエンジニア	ユーザ
切り口	人材 (キャリアフレームワーク)	技術 (スキルフレームワーク)	組織機能と業務
構造 (注)	 <p>スキルディクショナリー</p>	 <p>キャリアフレームワーク</p>	 <p>キャリアフレームワーク</p>

全体を共通化する「共通キャリア・スキルフレームワーク」を整理  
 情報処理技術者試験は、共通キャリア・スキルフレームワークに「準拠」するように改定  
 各スキル標準は、職種、レベル感、評価方法、用語などを共通キャリア・スキルフレームワークと共通化



ダウンロード対象	スキル構成		研修ロードマップ(職種別)		研修科目 一連ダウンロード ファイル
	基礎的知識と基礎的 技能 (職種別)	スキル構築とスキル 熟達度・知識項目 (職種別)	研修ロードマップ(職種別)		
			本職	マトリックス	
マーケティング	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
セールス	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
コンサルタント	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
ITアーキテクト	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
プロジェクト マネジمنت	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
ITスペシャリスト	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
アプリケーション スペシャリスト	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
ソフトウェア 開発	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
カスタマーサービス	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
ITサービス マネジمنت	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
エデュケーション	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>
レベル4、5共通	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>	<a href="#">Excel (1.4.0.0)</a>	<a href="#">Word (1.5.2.0)</a>

## プロジェクトマネジメントの達成度指標

専門分野	システム開発	レベル5
<b>【ビジネス貢献】</b> <b>●責任性</b> プロジェクトの提案、立上げ、計画策定、実行、監視コントロール、終結の全プロセスにおけるプロジェクト全体の責任者として、プロジェクトメンバをリードし、計画された納入物やサービスの要求品質、コスト、納期を3回以上(内1回以上はレベル5、他はレベル4以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。 <b>●複雑性</b> 以下の2項目以上の条件に該当するプロジェクトを成功裡に遂行した経験と実績を有する。 <input type="checkbox"/> 国際的なプロジェクト(文化的、社会的並びに、国際的、政治的に厳しい環境) <input type="checkbox"/> 世界的にも先進的なプロジェクト <input type="checkbox"/> 複雑な移行要件 <input type="checkbox"/> 複雑な契約条件(要求品質、コスト、納期の厳しい制約条件等) <input type="checkbox"/> 複雑なシステム構築要件(I/Fオーマンス、セキュリティ、稼働運用要件等) <input type="checkbox"/> 複雑なシステムデザイン(マルチプラットフォーム、高可用性、新規製品や技術、インタフェースの数及び条件) <input type="checkbox"/> 複雑なアプリケーション要件 <input type="checkbox"/> 複雑なプロジェクト体制(顧客、サブコントラクト、オフショア、協業関係、関係部門) <b>●サイズ</b> 以下のいずれかの規模に相当するプロジェクトを成功裡に実施した経験と実績を有する。 <input type="checkbox"/> 管理する要員数がピーク時10人以上50人未満または年間契約金額1億円以上5億円未満 <input type="checkbox"/> 管理する要員数がピーク時10人未満または年間契約金額1億円未満で、上記複雑性の条件の4項目以上に該当		
<b>【プロフェッショナル貢献】</b> 以下のプロジェクトマネジメント領域のいずれかについて他を指導することができる高度な専門性を保有し、社内に貢献している <input type="checkbox"/> プロジェクト統合マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト・スコープ・マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト・タイム・マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト・コスト・マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト品質マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト人的資源マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト・リスク・マネジメント <input type="checkbox"/> プロジェクト調達マネジメント 一技術の継承に対して次の3項目以上の実績を有する <input type="checkbox"/> 学会、委員会等プロフェッショナルコミュニティ活動 <input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 社外論文掲載 <input type="checkbox"/> 社内論文掲載 <input type="checkbox"/> 社外講師 <input type="checkbox"/> 社内講師 <input type="checkbox"/> 特許出願 一後進の育成(メンタリング、コーチング等)の実績を有する		

職種の概要と達成度指標

PM-7

©2008 経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構

ITスキル標準V3 2008\_1031

### プロジェクトマネジメント(システム開発)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向				
メソドロジー				システム要件定義 技法 コンサルティング メソドロジー	DOA構造化手法	コミュニティ活動		
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	プロジェクト マネジメント 上級	コンプレックスマネジメント	プロジェクトマネジメント最新動向	
ビジネス/ インダストリ				プロジェクトマネジメント最新動向			インダストリアプリケーション動向 最新ビジネス動向	
パーソナル				プロジェクトマネジメントのトップ プロジェクトマネジメントのミッド プロジェクトマネジメントのボトム				

■ : 職種共通 □ : 専門分野別選択

# ITスキル標準 研修ロードマップの概要(プロジェクトマネジメントの例)

ITスキル標準V3 2008\_1031

プロジェクトマネジメント(システム開発)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向				
メソドロジー				システム要件定義 技法 コンサルティング メソッドロジ	DOA構造化手法			
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 方法論	コンプレクスマネジメント		コミュニティ 活動		
ビジネス/ インダストリ				プロジェクトマネジメント 実践 プロジェクト マネジメント 上級		プロジェクトマネジメント 最新動向 インダストリアプリケーション動向 最新ビジネス動向		
パーソナル				プロジェクトマネジメント 方法論				

■ : 職種共通 □ : 専門分野別選択

研修ロードマップ(プロジェクトマネジメント)

2

©2008 経済産業省, 独立行政法人 情報処理推進機構

ITスキル標準V3 2008\_1031

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト憲章作成</li> <li>プロジェクト選定手法, プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), 専門家の判断</li> <li>プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), 専門家の判断</li> <li>プロジェクトマネジメント計画書作成</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), 専門家の判断</li> <li>プロジェクト実行の指揮・マネジメント</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)</li> <li>プロジェクト作業の監視コントロール</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), アード・リビュー法, 専門家の判断</li> <li>統合変更管理</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), 専門家の判断</li> <li>プロジェクト終結</li> <li>プロジェクトマネジメント方法論, プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS), 専門家の判断</li> </ul>
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ計画</li> <li>専門家の判断, テンプレート・書式標準</li> <li>スコープ定義</li> <li>プロジェクト分析, 代替案識別, 専門家の判断, ステークホルダー分析</li> <li>WBS作成</li> <li>ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート, 要素分解</li> <li>スコープ検証</li> <li>検査</li> <li>スコープ・コントロール</li> <li>変更管理システム, 差異分析, 再計画, コンフィグレーション・マネジメント・システム</li> </ul>

研修ロードマップ(プロジェクトマネジメント)

23

©2008 経済産業省, 独立行政法人 情報処理推進機構

プロジェクトマネジメント(システム開発)の研修コース一覧

ITスキル標準V3 2008\_1031

コース群の分類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	標準時間	実時間		
基礎 講座	システム設計	システム設計の基礎	○	○	○	30	5	12	
	システム構築	システム構築	○	○	○	60	5	15	
	システム運用/保守	システム運用/保守	○	○	○	30	5	18	
	プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎	○			30		22	
	プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践		○	○			4	28
	プロジェクトマネジメントツールとプロセス	プロジェクトマネジメントツールとプロセス		○			12		33
職種 共通	システム要件定義技法	システム要件定義技法	○	○	○	12	3	36	
	コンサルティングメソッドロジ	コンサルティングメソッドロジ	○	○	○	12	2	39	
	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ		○				3	42
	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション		○				3	45
	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション		○				3	48
	コンプレクスパブリックプロジェクトマネジメント	コンプレクスパブリックプロジェクトマネジメント		○				3	51
	品質マネジメント	品質マネジメント		○	○			2	57
	リスクマネジメント	リスクマネジメント			○			3	59
	プロジェクトマネジメント上級	プロジェクトマネジメント上級		○	○	○	24	3	61
	調達マネジメント	調達マネジメント		○	○	○			3
特別 講座	プロジェクトマネジメントの契約管理	プロジェクトマネジメントの契約管理	○			12		66	
	最新技術動向	最新技術動向	○	○				1	69
	プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向	○			3		72	
	最新ビジネス動向	最新ビジネス動向	○	○		3	0.5	78	
	インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向	○	○		12	2	81	
コミュニティ活動	コミュニティ活動	—	—	—	—	—	—	84	
専門 分野 別 選択	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)	○	○	○	18	2	87	
	DOA構造化手法	DOA構造化手法	○			12		90	

研修ロードマップ(プロジェクトマネジメント)

6

©2008 経済産業省, 独立行政法人 情報処理推進機構

ITスキル標準V3 2008\_1031

コース名	プロジェクトマネジメント基礎
研修コースの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座</li> </ul>
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発</li> </ul> <p>当コースは、プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p>
コース概要	<p>○ 当コースでは、「PMBOK」に準じて、プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了等、プロジェクトマネジメント全局面の知識領域について基礎的な内容を網羅しており、業種や分野別の特性にとらわれない汎用的なプロジェクトマネジメントの概念を学習する。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 30時間 (1日6時間×5日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識を活用し、プロジェクトメンバーとして、プロジェクトマネジメントを実施することができる。

研修ロードマップ(プロジェクトマネジメント)

22

©2008 経済産業省, 独立行政法人 情報処理推進機構

# 4. 政府役職員に関するIT関連の期待技能(例)

2	役割と能力		要求レベル(スキル6段階:役職メイン)						知識要件(一般的な技術・知識等)	スキル要件(職務等に応じて習得した能力等) ※最低限必要なレベルとして記載
	職責 (工種等)	タスク	求められる能力	CIO	CIO補佐官	PMO	PJM	PMO		
4	全体最適	最適化推進体制構築	組織、ルールの構築力						最適化推進体制の構築	推進、組織の育成
5	IT政策決定係	政策決定係職を發給する	組織、経緯、人材の権限と責任を理解し、調整・合意を得る。	H	H	H	-	-	組織策定、調整、府省庁内ルール	府省庁内の組織、経緯等を熟知している。
6	IT政策決定係	政策決定ルール・手順を定める	既存の政策決定係職との関係を整理し、ルールを作成できる。	H	H	H	-	-		府省庁内に決定ルール、意思決定に関するプロセスを熟知している。
7	PMO統括係	PMOを發給する	新たな管理組織を形成できる。(権限)	H	H	M	-	-	新設組織統括、プロジェクト管理統括	PMO統括があり、プログラム管理に必要な結果と問題解決能力を有する。
8	PMO統括係	PMOの役割等を定める	ITプログラム及びITプロジェクトを管理・運営できる。	H	H	H	-	-		
9	啓蒙・啓蒙	啓蒙、広範啓蒙を推進する	情報発信、説明等を積極的に行える。	H	H	H	-	-	コミュニケーション統括、研修統括、情報発信統括	実績等を達成できる。
10	啓蒙・啓蒙	啓蒙、広範啓蒙を推進する	組織内への周知・徹底を図る。	H	H	H	M	L		
11	最適化マネジメント	最適化マネジメント	ITガバナンスの確立及び実行能力						文書の整理、運用に関する知識	ITガバナンスに関与する基本的な能力・期待技能
12	IT戦略立案	ITに係る全体最適を実現する	全体最適のビジョンを持つことができる。	H	H	H	M	L	目標・優先順位、政策分析(政策評価等)	目標内で将来ビジョンを考えることができる。
13	IT戦略立案	府省庁内のIT全体計画を策定する	政策的観点からIT事業戦略を立案できる。	H	H	H	M	-	WOT分析、BSC戦略マップなどの経営戦略分析	6府省庁計画及び自府省庁内の基本政策、基本計画等理解している。
14	IT戦略立案	IT全体計画内容を整理・評価する	各事業等のIT化対象を把握し、BPR、モデルリングができる。	H	H	H	M	-	PM手法、EA協定統括、UML等によるビジネスモデルリング統括	業務内容を分析し、BPR/持来モデルの策定ができる。
15	IT戦略立案	IT全体計画内容を整理・評価する	IT事業戦略の更新し、必要性・採否性・実現性・効果等を自覚できる。	H	H	H	M	-	GF等の費用対効果分析/リスク分析手法	計画内容の更新性、情報化の費用対効果等を分析評価、判断できる。
16	IT戦略立案	その後の健全性、優先度等考慮したIT戦略の妥当性を判断できる。	IT戦略の健全性、優先度等考慮したIT戦略の妥当性を判断できる。	H	H	H	M	-	ポートフォリオ分析やBSC等の総合評価統括	6府省庁視点からの事業の優先度を優先すべきかを判断できる。
17	IT戦略立案	計画的にPOCAサイクル管理を実施する	計画的にモニタリングを実施し、目標達成に必要に応じて対応することができる。	H	H	H	M	-	LOP、モニタリング手法、最適化ガイドライン、SLM、ITIL、ナレッジDB	SLOP
18	IT戦略立案	IT導入に伴う組織・業務の改革を進める	組織改革の必要性を把握し、関係者に説明できる。	H	H	H	M	M	連携/コミュニケーション統括	関係者等を把握し、適切な形態、方法、手順により説明できる。
19	IT戦略立案	IT導入、運用に伴うITリテラシー向上を図る	ITリテラシー向上の取り組みを立案できる。	H	H	H	M	L	最適化ガイドライン	府省庁内のITリテラシーの現状を理解し、有効な向上策を立案、立案できる。
20	IT戦略立案	最適化ガイドラインを策定する	最適化ガイドラインを策定し、実施できる。	H	H	H	M	M	最適化ガイドライン	最適化ガイドラインの策定がある。
21	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	府省庁内の関係者等を特定・調査し、協力関係を築ける。	H	H	H	M	M	データホスティング分析、コミュニケーション統括	関係者等の意向を把握し、説明ができる。
22	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	PMOとPMOの関係を整理できる。	H	H	H	M	L	最適化ガイドライン	最適化ガイドラインに関連ドキュメントを各種評価を踏まえた説明等を行う。
23	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	府省庁と戦略的な連携ができる。	H	H	H	M	L	連携/コミュニケーション統括	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
24	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	PMOとPMOの関係を整理できる。	H	H	H	M	L	最適化ガイドライン	最適化ガイドラインに関連ドキュメントを各種評価を踏まえた説明等を行う。
25	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	関係者等を把握し、戦略的な連携ができる。	H	H	H	M	L	連携/コミュニケーション統括	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
26	IT戦略立案	府省庁内関係者等との調整を行う	上記以外の関係者と戦略的な連携ができる。	H	H	H	M	L	連携/コミュニケーション統括	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
27	IT戦略立案	IT予算管理	IT予算化方針を策定・説明する	H	H	H	M	L	連携/コミュニケーション統括	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
28	IT戦略立案	IT予算管理	予算配分基準・ルールを策定する	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
29	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
30	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
31	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
32	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
33	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
34	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
35	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
36	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
37	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
38	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
39	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
40	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
41	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
42	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
43	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
44	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
45	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
46	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
47	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
48	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
49	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
50	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。
51	IT戦略立案	IT予算管理	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	H	H	H	M	L	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。	関係者や府省庁内関係者の関係、概念を理解し、コミュニケーションできる。

最終行は238行

# 4. 政府役職員に関するIT関連の期待技能(例, 拡大)

2	役割と能力			要求レベル (スเกลラが役割メイン)				
	職面 (工種等)	タスク	求められる能力	CIO	CIO 補佐官	PMO	PJM O	部門 IT 管理官
3								
4	全体長官	最速化推進体制整備	組織、ルールの構築力					
5		IT意思決定機構	意思決定機構を整備する	H	H	H	-	-
6			組織・機構・人材の権限と責任を理解し、調整・合意を得る。	H	H	H	-	-
7		PMO体制構築	意思決定ルール・手順を定める	H	H	H	-	-
8			既存の意思決定機構との関係を整理し、ルールを作成できる。	H	H	M	-	-
9		PMO体制構築	PMOを整備する	H	H	H	-	-
10			新たな管理組織を設置できる。[権限]	H	H	H	-	-
11		PMOの役割等を定める	ITプログラム及びITプロジェクトを管理・運営できる。	H	H	H	-	-
12		甘案・甘案	甘案・広報内容を指揮する	H	H	H	-	-
13			情報対応、説明等を積極的にこなす、	H	H	H	M	L
14			組織内への周知・徹底を図る。	H	H	H	M	L
15		最速化マネジメント	ITガバナンスの確立及び実行能力					
16		IT戦略立案	ITに係わる全体最速を実現する	H	H	H	M	L
17			全体最速のビジョンを持つことができる。	H	H	H	M	-
18			府省庁内のIT全体計画を策定する	H	H	H	M	-
19			政策的観点からIT事業戦略を立案できる。	H	H	H	M	-
20			各事業等のIT化対象を把握し、EPR、モデリリングができる。	H	H	H	M	-
21			IT全体計画内容を自検・評価する	H	H	H	M	-
22			IT事業戦略の策定し、必要性・経済性・実現性・効果等を自検できる。	H	H	H	M	-
23			政策との適合性、最速化等考慮したIT戦略の妥当性を判断できる。	H	H	H	M	-
24			計画的にPDCAサイクル管理を実施する	H	H	H	M	-
25			計画的にモニタリングを実施し、各種状況にも柔軟に対応することができる。	H	H	H	M	-
26		最速化推進体制	IT導入に伴う組織・業務の改革を進める	H	H	H	M	M
27			最速化改革の必要性をトップ、関係者に説明できる。	H	H	H	M	M
28			IT導入・運用に伴うITリテラシー向上を図る	H	H	H	M	L
29			ITリテラシー向上の取り組みを立案できる。	H	H	H	M	L
30			最速化ガイドラインを実施する	H	H	H	H	M
31			最速化ガイドラインを理解し、実施できる。	H	H	H	H	M
32		調整	自府省庁内関係者等との調整を行う	H	H	H	H	M
33			自府省庁内の利害関係者を特定・調整し、協力関係を築ける。	H	H	H	H	M
34				H	H	H	H	M
35				H	H	H	M	L
36				H	H	H	M	L
37				H	H	H	M	L
38				H	H	H	M	L
39				H	H	H	M	L
40				H	H	H	M	L
41				H	H	H	M	L
42				H	H	H	M	L
43				H	H	H	M	L
44				H	H	H	M	L
45				H	H	H	M	L
46				H	H	H	M	L
47				H	H	H	M	L
48				H	H	H	M	L
49				H	H	H	M	L
50				H	H	H	M	L
51				H	H	H	M	L
52				H	H	H	M	L
53				H	H	H	M	L
54				H	H	H	M	L
55				H	H	H	M	L
56				H	H	H	M	L
57				H	H	H	M	L
58				H	H	H	M	L
59				H	H	H	M	L
60				H	H	H	M	L
61				H	H	H	M	L
62				H	H	H	M	L
63				H	H	H	M	L
64				H	H	H	M	L
65				H	H	H	M	L
66				H	H	H	M	L
67				H	H	H	M	L
68				H	H	H	M	L
69				H	H	H	M	L
70				H	H	H	M	L
71				H	H	H	M	L
72				H	H	H	M	L
73				H	H	H	M	L
74				H	H	H	M	L
75				H	H	H	M	L
76				H	H	H	M	L
77				H	H	H	M	L
78				H	H	H	M	L
79				H	H	H	M	L
80				H	H	H	M	L
81				H	H	H	M	L
82				H	H	H	M	L
83				H	H	H	M	L
84				H	H	H	M	L
85				H	H	H	M	L
86				H	H	H	M	L
87				H	H	H	M	L
88				H	H	H	M	L

# 5. 政府役職員におけるIT人材のキャリアパス(例)

出典:平成22年度情報システム統一研修実施計画(総務省行政管理局)

## 行政機関におけるIT人材のキャリアパスモデル

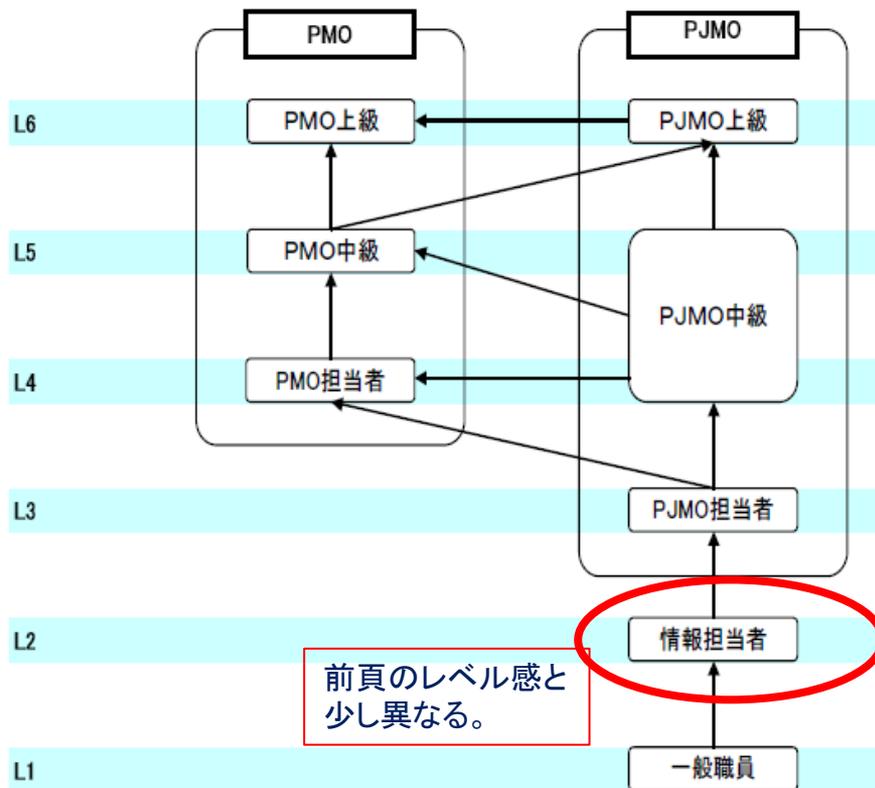
当該モデルは、情報システム統一研修各コースの受講対象者のレベルを体系化したものです。

受講する研修コースを選定するに当たって目安として活用して下さい。

情報システム統一研修の枠組みは整理されている。

個人別のスキルの把握(評価), 育成計画は?

## モデル定義



		業務機能・スキル	目安
L6	PMO上級	府省内のプロジェクトの優先順位付け及び実施管理、評価を行う	PJMO上級または複数年のPMO中級を経験していること
	PJMO上級	難易度の高いプロジェクトのPJMOの統括責任者としてプロジェクトを遂行する	PJMO中級として複数のプロジェクトを経験しているか、PMO中級としての経験を有すること
L5	PMO中級	府省内の複数のプロジェクトの実施管理を行う	PJMO中級として複数のプロジェクトを経験しているか、PMO担当者としての経験を有すること
L4~L5	PJMO中級	難易度の中程度のプロジェクトのPJMOの統括責任者としてプロジェクトを遂行する	PJMO担当者として複数のプロジェクトを経験していること
L4	PMO担当者	PMOの統括責任者の指示に従いPMOの構成員として府省内の複数のプロジェクトの実施管理を支援する	PJMO中級またはPJMO担当者としての経験を有すること
L3	PJMO担当者	PJMOの統括責任者の指示に従い難易度の低いプロジェクトのPJMOの構成員としてプロジェクトを遂行する	情報担当者としての経験を有すること
L2	情報担当者	一般職員の中で情報担当として業務を行う	ある程度の情報に関する素養を有していることが望ましい
L1	一般職員	一般職員として業務を行う	

(注)レベルは、共通キャリア・スキルフレームワークのレベルに対応。ITスキル標準等も、同一の基準。

# 6. 各人のITスキルの把握(管理)に必要な事項(例)

## ITスキル標準の社内認定の確認項目

スキルは、期待技能に基づき詳細把握(評価) 公的資格でスキル評価の客観性を担保

経験と役割を評価

専門家集団内の活動(評価)も大切

社内プロフィール詳細の参照先: 0209231

最新更新日: 2007年4月10日

主要資格・研修・資格・プロフェッショナル団体の記録

申請者氏名	氏名: 横山 太郎	所属: 情報システム開発部 開発1課
申請職種	アプリケーションシステム	専門分野
申請レベル	□ レベル4 → □ レベル5 → □ レベル6 → □ レベル7	希望システム

<主要資格実績>

期間	役割	資格(プロジェクト)内容	実績No.
2006年1月 - 2006年12月	全席席の 開発チーム責任者	A社販売・物流システムの構築、ビジネスモデルの構築に伴い、基幹のバックエンドIT技術を構築し、業務のリアクティブ化の構築システムを構築する。	No. 1
2005年1月 - 2005年12月	全席席の 開発チーム責任者	A社、EC業務でWeb技術を採用し、全席席対応にアプリケーションサーバを配置し構築、データベースが共に配置、業務のアプリケーションで他社との連携性を確保する。	No. 2
2005年1月 - 2005年6月	全席席の 開発チーム責任者	A社顧客管理システムの構築を目的としたCallCenterシステムを他社に構築しシステム構築するともに、他社の顧客対応を担い、他社に貢献する。システム以外に顧客の教育も担当する。構築に資する。	No. 3
2003年1月 - 2004年12月	外務課システム システムテスト 開発チームリーダー	B社の企業合併に伴い全社システム構築、販売・物流業務に責任を担う。構築に資する。構築期間365日運用が前提。	-
2002年4月 - 2002年12月	外務課システム システムテスト 開発チームリーダー	C社販売・物流業務システム構築、オフショア開発関係構築を担い、構築期間365日運用が前提。構築期間365日運用が前提。	-

<研修実績>

受講年月	期間	研修コース名	研修内容・目的	社内/社外区分
2004年1月	3日間	小企業アプリケーション構築	業務知識コース(小企業におけるビジネス戦略と業務アプリケーション構築のための業務の進化を学ぶ)	社外
2005年4月	6日間	業務システム構築上級	ITスキル研修研修ロードマップ参加	社外
2006年4月	6日間	業務システム構築上級	ITスキル研修研修ロードマップ参加	社外

改ページ

社内プロフィール詳細の参照先: 0209231

最新更新日: 2007年4月10日

資格取得

取得年月	資格名称
2004年5月	ORACLE Platinum
2005年6月	ビジネスキャリア制度(資格 マーケティング分野)受験

<著作・論文>

発表年月	著作・論文名	具体的内容	社内/社外区分
2004年10月	小企業におけるECアプリケーションの生産性向上論	小企業における業務知識を踏まえたECアプリケーションに関する業務生産性向上の策定と向上のための業務知識	社内
2005年10月	ITスキル研修を目的としたアプリケーションシステム構築のためのマネジメント研修	アプリケーションシステム構築のためのマネジメント研修	社内

<講演・講師>

発表年月	発表機会	具体的内容	社内/社外区分
2005年11月	小企業セミナー(社内発表)	小企業におけるECの現状と競争力強化のための情報化企業への提案	社内

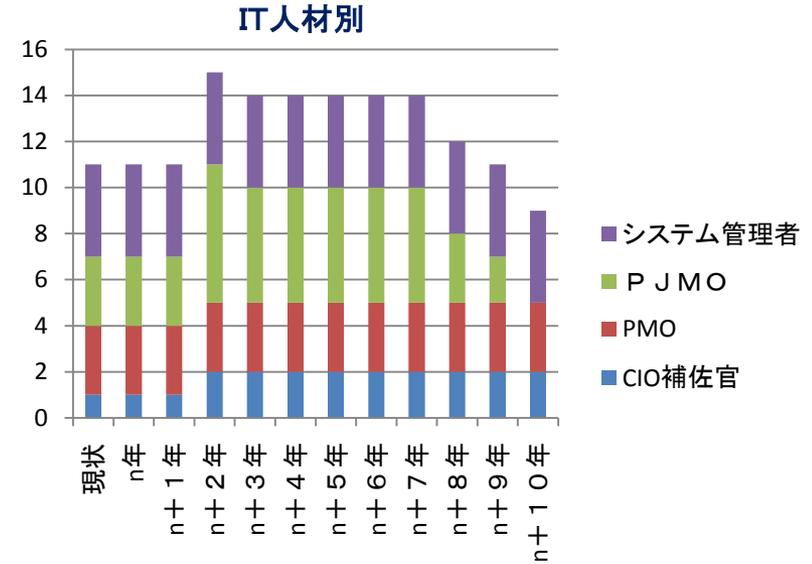
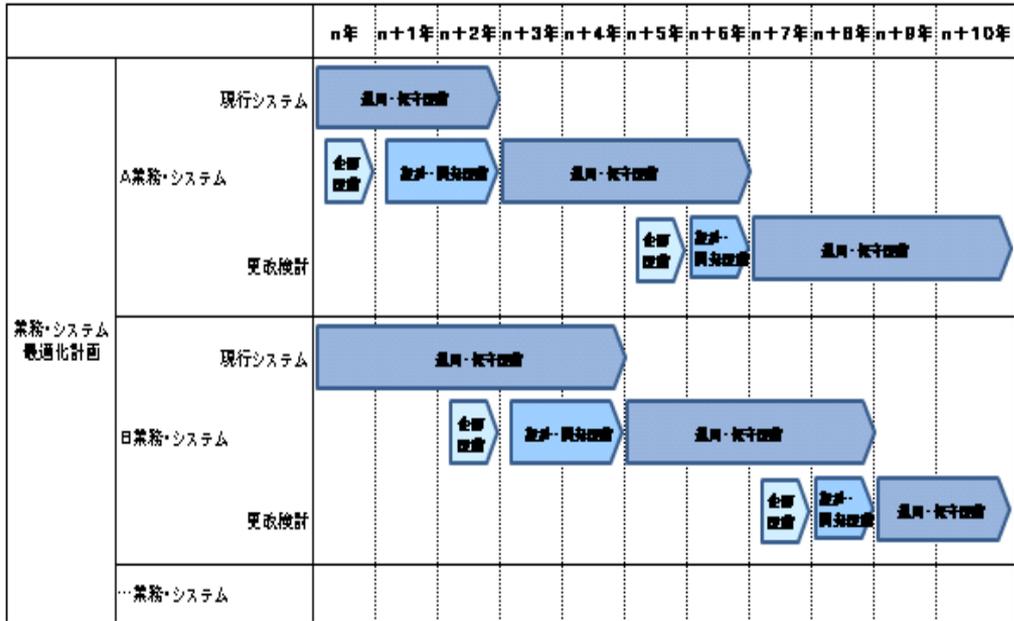
<研修出席>

出席年月	名称	具体的内容	社内/社外区分
2005年1月	小企業におけるERPパッケージ採用プロジェクトプロセス	小企業におけるERPパッケージを採用した構築・販売システム構築における、運用プロセスを定義、多岐の要求定義、要件分析、要件定義、プロジェクト分析に際し、汎用的なプロセスアウトプットを定義。	社内

<学会・コミュニティ参加>

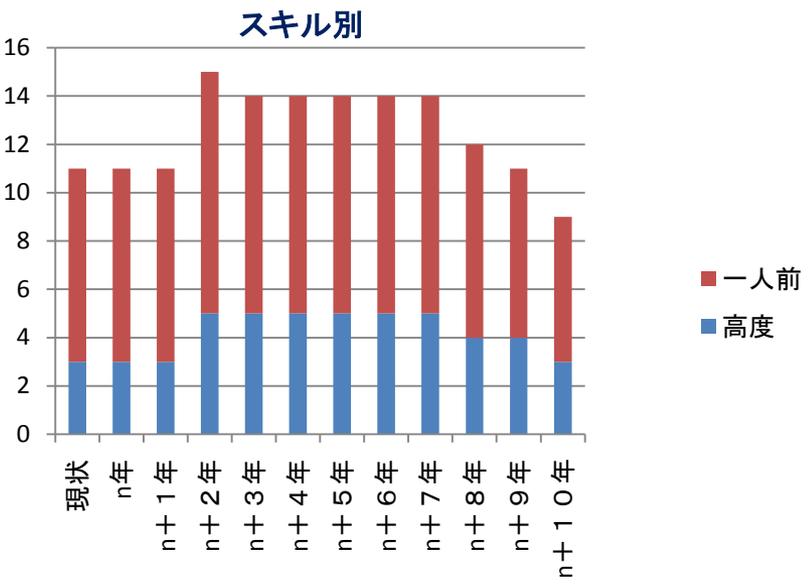
参加期間	名称	参加内容	社内/社外区分
2005年1月- 2005年1月	情報処理学会	モテリノリ研究発表会にて発表	社外
2005年2月- 2006年12月	AP3コミュニティ	AP3研究発表会にてモテリノリ研究発表会にて発表	社内

# 7. 中長期IT計画とIT人材ポートフォリオ(イメージ)



人材要求	A	B	年															
			n	n+1	n+2	n+3	n+4	n+5	n+6	n+7	n+8	n+9	n+10					
CIO補佐官	高度		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	一人前																	
PMO	高度		1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	一人前		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
PJM O	高度		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	一人前		2	2	2	1		2	2	1								
システム管理者	高度		1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0		
	一人前		2	2	4	3	3	3	3	3	3	2	1	1	0			
合計	高度		3	3	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	3			
	一人前		8	8	10	9	9	9	9	9	9	8	7	6				

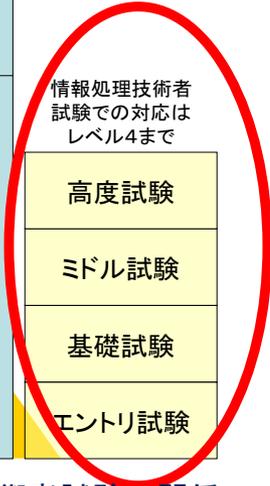
赤字のところは、合計数を見直して、余裕あり



# 8. 政府でのIT人材の育成・確保への発想

1. 育成に過大な期待は禁物。育成には相応の時間も必要。  
CIO補佐官クラスの高度IT人材(レベル4~5以上)は、当面、外部人材の活用も必要ではないか。
2. 任用(調達)の方法も、高度IT人材に該当していることを評価できるように、良く検討することが大切ではないか。
3. 各府省のCIO補佐官も、更に、技量や能力を向上・研鑽することが望ましいのではないか。  
情報の共有や、共同作業等で、相互啓発をできる環境・機会も大切。  
具体的には、相互に他府省の事案やレビューに参加することも有効ではないか。
4. 府省内の職員の育成では、先ずは、IT人材として一人前の水準(レベル3相当)の人材の育成を目指すことが現実的ではないか。特定の個人を意識して育成して、レベル1からレベル2、レベル3へと、順次レベルアップしていくことも必要。
5. 客観的なレベル評価のツールとして、情報処理技術者試験を活用することも有効。

高度IT人材	スーパーハイ	レベル7	国内のハイエンドプレイヤーかつ世界で通用するプレイヤー	成果(実績)ベース ↓ 業務経験や面談等	プロ ミ 各企業で判断
		レベル6	国内のハイエンドプレイヤー		
	ハイ	レベル5	企業内のハイエンドプレイヤー	試験+業務経験により判断	
		レベル4	高度な知識・技能		
	ミドル	レベル3	応用的知識・技能	スキル(能力)ベース ↓ 試験の可否	
		レベル2	基本的知識・技能		
		レベル1	最低限求められる基礎知識		



レベル4は、高度試験に合格し、社内で業務経歴の評価を受けて認定

レベル1~3は、対応する区分の試験に合格することで(そのまま)認定

共通キャリア・スキルフレームワークのレベル感と情報処理技術者試験の関係

## 9. IT人材の育成・確保 実施方法について(提言)

### 1. 戦略的な人材育成・確保の**マネジメント**が大切

- (1) IT投資に関する中長期ビジョンが前提
- (2) それに府省としての考えで味付けをして
- (3) 現状とのギャップ分析を踏まえて
- (4) 計画的な人材の育成・確保を行う

### 2. 各府省の自主的な対応を前提としながらも、 場合によっては、府省の枠を超えた対応が必要

- (1) 高度IT人材は、外部からの任用・確保も必要
- (2) 同時に、政府内のIT人材の計画的な育成に注力することが肝要
- (3) 府省の枠を超えたIT人材の流動性の確保も大切  
(高度IT人材のプール, 応援・派遣)
- (4) これらを踏まえた教育プログラムを整備
- (5) 高度IT人材の相互啓発, ロールプレイの場を提供



# 【参考4】 情報処理技術者試験の体系

共通キャリア・スキル フレームワーク		情報システム 組込みシステム		独立
		ベンダ側	ユーザ側	
レベル	高度な 知識・技能	高度 プロフェッショナル 試験 ストラテジスト試験 (S) システムアーキテクト試験 (SA) プロジェクトマネージャ試験 (PM) ネットワークスペシャリスト試験 (NW) データベーススペシャリスト試験 (DB) エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (ES) 情報セキュリティスペシャリスト試験 (SC) サービスマネージャ試験 (SM) システム監査技術者試験 (AU)		
レベル	応用的 知識・技能	応用情報技術者試験 (AP)		
レベル	基本的 知識・技能	基本情報技術者試験 (FE)		
レベル	職業人に 共通に 求められる 基礎知識	パスポート試験 (IP)		

出典: 独立行政法人情報処理推進機構 <http://www.ipa.go.jp>

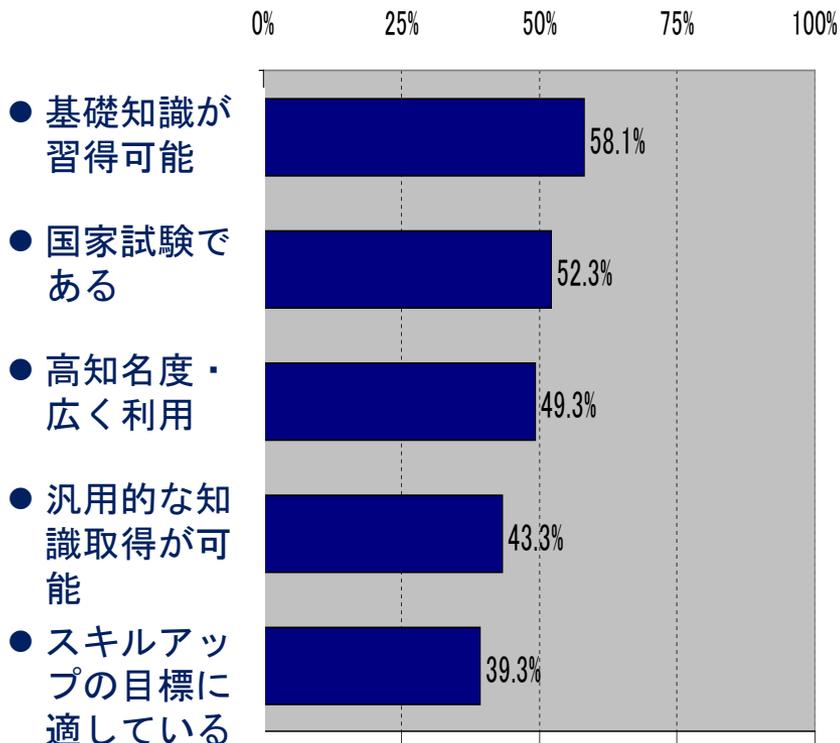
情報処理技術者試験の紹介 [http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_04hanni\\_sukiru/index\\_hani\\_sukil.html](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/index_hani_sukil.html)

情報処理技術者試験の概要パンフレット [http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_13download/pamphlet\\_ver1.0.pdf](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/pamphlet_ver1.0.pdf)

# 【参考5】 民間企業は、情報処理技術者試験の有効性を高く評価

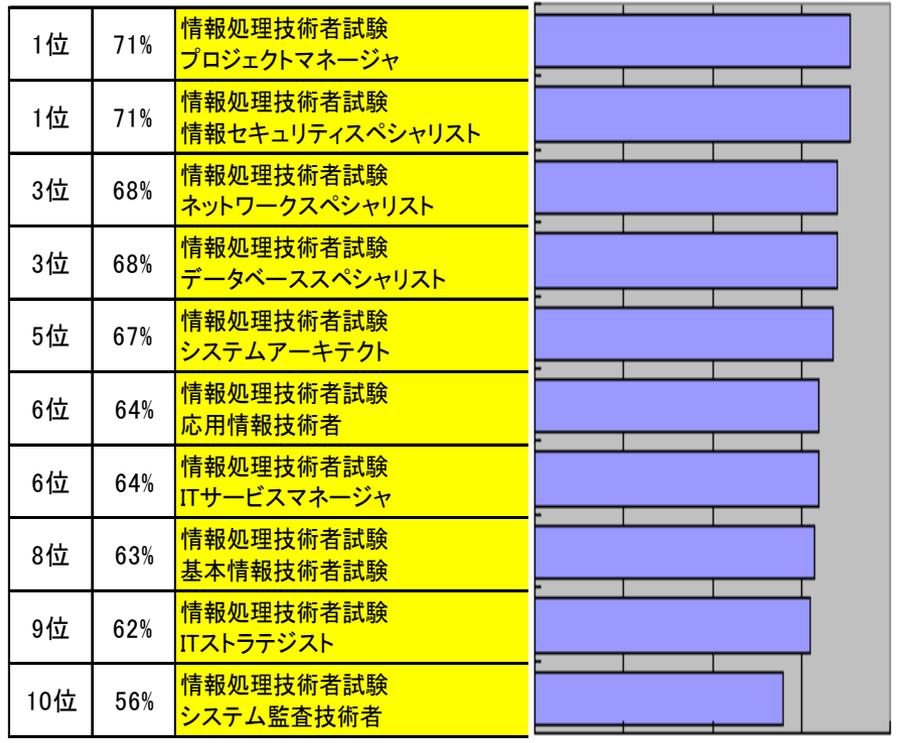
●「技術職に取らせたい資格」: 情報処理技術者試験が、第1位～第10位を独占。  
調査対象は、IT関連の各種公的資格、民間資格

【民間における高い評価】



(出典:「IT人材白書2010」)

【技術職に取らせたい資格】



(出典: 日経ソリューションビジネス2009.10.30  
ソリューションプロバイダ101社のアンケート調査)

## 【参考6】 政府職員の情報リテラシの整理

1. 今や、情報リテラシは、全ての職業人が、当然に身につけておく知識・技量・能力。
2. 一般職員の研修体系に組み込み、情報リテラシを身につけて、日々の仕事に取り組むことが大切ではないか。  
例えば、総務省の情報システム統一研修を、この方向を踏まえて整理することも有効ではないか。
3. 育成の成果は、客観的な評価方法として、世の中でも広く評価を受けている、ITパスポート試験を利用することも有効ではないか。

平成21年、22年で  
25万人以上の方々が応募し  
11万人以上の方々が合格  
(受験者の合格率は53%)

応募者 253,955  
受験者 212,799  
合格者 112,879

### ITパスポート試験®

**あなたのIT力を、  
国が証明します。**

「ITパスポート試験」は、情報技術の  
基礎知識を問う国家試験です。  
IT化された社会で働くすべての方に  
必要な基本的能力を証明できます。



# 【参考7】 ITパスポート試験の人材像

対象者像	職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする者
業務と役割	職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得した者であり、担当する業務に対して情報技術を活用し、次の活動を行う。 ① 利用する情報機器及びシステムを把握し、活用する。 ② 担当業務を理解し、その業務における問題の把握及び必要な解決を図る。 ③ 安全に情報の収集や活用を行う。 ④ 上位者の指導の下、業務の分析やシステム化の支援を行う。
期待する技術水準	職業人として、情報機器及びシステムの把握や、担当業務の遂行及びシステム化を推進するために、次の基礎的な知識が要求される。 ① 利用する情報機器及びシステムを把握するために、コンピュータシステムやネットワークに関する知識をもち、オフィスツールを活用できる。 ② 担当業務を理解するために、企業活動や関連業務の知識をもつ。また、担当業務の問題把握及び必要な解決を図るために、システム的な考え方や論理的な思考力をもち、かつ、問題分析及び問題解決手法に関する知識をもつ。 ③ 安全に情報を活用するために、関連法規や情報セキュリティに関する各種規定に従って活動できる。 ④ 業務の分析やシステム化の支援を行うために、情報システムの開発及び運用に関する知識をもつ。
レベル対応	共通キャリア・スキルフレームワークの5人材像（ストラテジスト、システムアーキテクト、サービスマネージャ、プロジェクトマネージャ、テクニカルスペシャリスト）のレベル1に相当

# 【参考8】 ITパスポート試験の出題範囲

テクノロジー系の分野とともに、  
ストラテジ系の分野、マネジメント系の分野についても広く出題

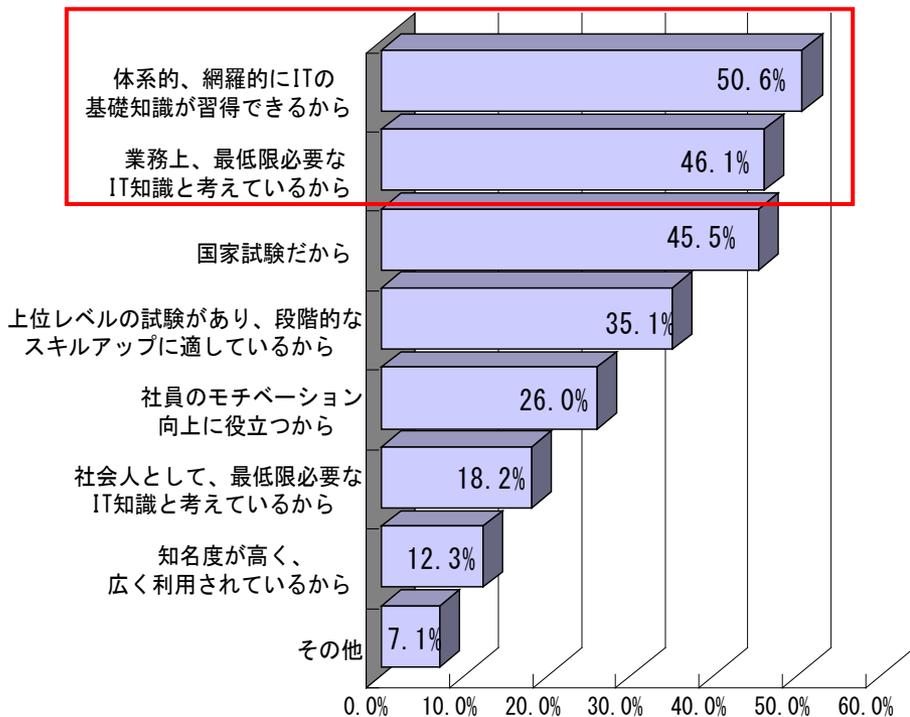
分野	大分類		中分類	
ストラテジ系	1	企業と法務	1	企業活動
			2	法務
	2	経営戦略	3	経営戦略マネジメント
			4	技術戦略マネジメント
			5	ビジネスインダストリ
	3	システム戦略	6	システム戦略
			7	システム企画
マネジメント系	4	開発技術	8	システム開発技術
			9	ソフトウェア開発管理技術
	5	プロジェクトマネジメント	10	プロジェクトマネジメント
	6	サービスマネジメント	11	サービスマネジメント
12			システム監査	
テクノロジー系	7	基礎理論	13	基礎理論
			14	アルゴリズムとプログラミング
	8	コンピュータシステム	15	コンピュータ構成要素
			16	システム構成要素
			17	ソフトウェア
			18	ハードウェア
	9	技術要素	19	ヒューマンインタフェース
			20	マルチメディア
			21	データベース
			22	ネットワーク
23			セキュリティ	

# 【参考9】 ITパスポート試験に関する企業における評価

1. 基礎知識の取得が可能(50.6%)や業務上最低限の知識(46.1%)との位置づけが多い。
2. 成果としては、コミュニケーションの円滑化(11.7%)や社内研修の効率化(11.7%)という面でも一定の評価。

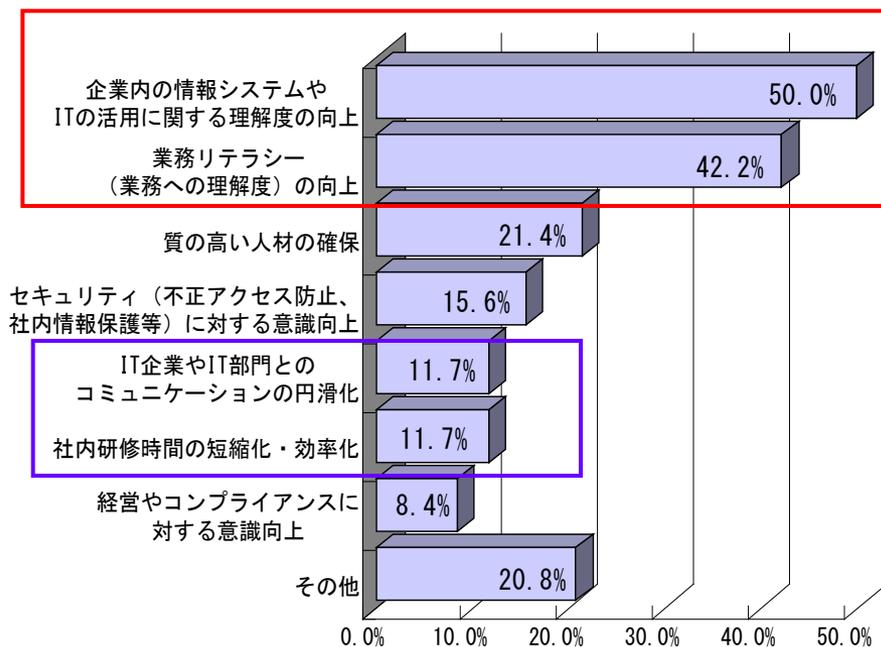
貴社でITパスポート試験を利用している理由をお答えください

(回答数:154)



ITパスポート試験を利用することにより、貴社ではどのような成果が出ていますか。どのような成果を期待されていますか

(回答数:154)



出典:ITパスポート試験普及協議会アンケート(2010年7月実施)

# 【参考10】 ITパスポート試験の活用事例

●官民学を通じて、広く活用されている。

## 金融庁

平成21年度から、新入職員全員及び職員の希望者を対象に「IT基礎知識研修」という研修科目を創設。  
受講者にITパスポート試験の受験を推奨。



## 大塚商会

全社的にITパスポート試験を推奨。合格支援策として、試験対策講座の提供等を実施するとともに、合格者に対する受験料の会社負担や報奨金支給を実施。また、内定者に対する対策講座実施や受験推奨によって入社後の研修や業務に慣れやすいという効果が出ている。

## 青山学院大学

社会情報学部では、ITパスポート試験シラバスに準拠した「情報処理基礎」(半年間、2単位)を2年次に開講。また、学部生全員にモバイル端末(iPhone)を配付し、iPhone上で閲覧できるITパスポート試験の学習コンテンツを提供。



## 海上自衛隊

情報システム装備増大に伴い、幹部候補生にITパスポート試験に準拠した授業を実施するとともに、修了試験としてITパスポート試験を受験させ、成績に反映。

## 楽天証券

全社員を対象にITパスポート試験の受験を推奨。受験対象者に対し、試験対策講座や社内模試、学習教材の提供などの合格支援策に加え、受験料の会社負担(初回受験のみ)や合格祝金支給を実施。

## 京都すばる高校

情報科学科では、1年生の秋にITパスポート試験の受験を必須としており、授業や土曜日の補習で試験対策を実施。合格者は全校集会での表彰や校内掲示板に名前を掲示。在学中に資格を取得した高校生を対象に表彰制度を設けている京都府教育委員会からも表彰。

# 【参考11】 情報処理技術者試験制度の概要

URL : [http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_04hanni\\_sukiru/\\_index\\_hani\\_sukil.html](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_hani_sukil.html)

The screenshot shows the website of the Information Technology Promotion Agency (IPA). The main navigation bar includes links for HOME, Information Security, Software/Engineering, IT Human Resources, and Information Technology Engineers Examination. The current page is titled '試験要綱・シラバス・過去問題 など' (Exam Syllabus, Syllabus, Past Questions, etc.). A sidebar on the left lists various exam-related links. The main content area features a section for '試験要綱' (Exam Syllabus) with a sub-section for '試験要綱 Ver.1.2 (2009年12月22日更新)' (Exam Syllabus Ver.1.2, updated Dec 22, 2009). Below this, there are links to 'シラバス(情報処理技術者試験における知識・技能の項目)' (Syllabus (Items of Knowledge and Skills in the Information Technology Engineers Examination)) and a list of exam syllabi for various levels and subjects, such as 'ITパスポート試験(レベル1)シラバス改訂版(Ver.1.1)' and '基本情報技術者試験(レベル2)シラバス'.

The image shows the cover of a pamphlet titled '国家試験 情報処理技術者試験のご案内 Information Technology Engineers Examination'. The cover has a blue background with a digital pattern. A yellow box on the right side contains the following content:

**【内容】**

1. 情報処理技術者試験の概要
2. 情報処理技術者試験が対象とするIT人材像
3. 情報処理技術者試験の実施

At the bottom of the pamphlet, the IPA logo and name are visible: 'IPA 独立行政法人 情報処理推進機構 IT人材育成本部 情報処理技術者試験センター'.

URL : [http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_13download/pamphlet\\_ver1.0.pdf](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/pamphlet_ver1.0.pdf)